

研究・調査報告書

| 分類番号 | 報告書番号 | 担当 |
|--|--------|---------------------|
| A-169 | 14-062 | 滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 |
| 題名 (原題/訳) | | |
| Resilience characteristics mitigate tendency for harmful alcohol and illicit drug use in adults with a history of childhood abuse: a cross-sectional study of 2024 inner-city men and women. 障害許容力は児童虐待の既往を持つ成人の有害飲酒・不正薬物使用を減少させた：スラム地区の男女 2,024 人に対する横断研究 | | |
| 執筆者 | | |
| Wingo AP, Ressler KJ, Bradley B. | | |
| 掲載誌 | | |
| J Psychiatr Res. 2014 Apr;51:93-9. doi: 10.1016/j.jpsychires.2014.01.007. | | |
| キーワード | | PMID |
| アルコール使用、児童虐待、障害許容力、薬物使用、精神的外傷 | | 24485848 |
| 要 旨 | | |
| <p>背景 リジリエンス(心の回復力)特性は、不幸な出来事や心的外傷に適切に処理する能力と関係がある。児童虐待や心的外傷に共通する心理的後遺症は、薬物乱用である。しかしながらリジリエンス特性、児童虐待、アルコールおよび薬物の使用障害に関するデータは限られている。本研究ではリジリエンス特性と生涯の飲酒および違法薬物使用との関連について児童虐待やその他の心的外傷を負った人が多い inner-city(スラム地区)の 2,024 名の成人を対象に検討した。</p> <p>方法 横断研究では、リジリエンスは Connor-Davidson Resilience Scale を用い、また児童虐待については Childhood Trauma Questionnaire を用い、また生涯における飲酒と違法薬物については the Alcohol Use Disorder Identification Test と Drug Abuse Screening Test をそれぞれ改変して用いた。リジリエンスと薬物乱用との関連は、心的外傷の程度、年齢、性別で調整し、線形回帰モデルを用いて検討した。</p> <p>結果 心的外傷の程度、年齢、性別で調整した解析で、リジリエンス特性の値が高いほど生涯飲酒が減り(β(回帰係数) = -0.11; $p = 0.0014$)、またリジリエンス特性と児童虐待(中等度以上)の積も、この値が高いほど生涯飲酒が減った($\beta = -0.06$; $p = 0.0115$)。同様にリジリエンス特性の値が高いほど違法薬物使用が減り($\beta = -0.03$; $p = 0.0008$)、またリジリエンス特性と児童虐待(中等度以上)の積についても、この値が高いほど違法薬物使用が減った($\beta = -0.01$; $p = 0.0256$)。</p> <p>結論 リジリエンス特性はすでに知られているように PTSD、うつ病、自殺のリスクを緩和するだけでなく、この結果から児童虐待やその他の心的外傷後の成人の薬物乱用に予防的に働くことが示唆された。</p> | | |